

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成28年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成28年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 28 年 4 月～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、くろかわ、加美、
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 143 企業

2. 調査対象期間

平成 28 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 28 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	32
建 設 業	25
小 売 業	42
サービス業	44
合 計	143

5. そ の 他

本報告書中のDIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成28年4月～6月期)の調査において、産業全体の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より△0.3ポイントの若干の悪化で△25.0(前期△24.7)となった。産業別にみると、製造業は△6.7(前期△16.6)と9.9ポイント改善、建設業が4.0(前期△12.0)と16.0ポイント改善、小売業では△51.2(前期△35.7)と△15.5ポイント悪化、サービス業では△29.6(前期△26.6)と△3.0ポイント悪化した。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体として今期は前期(H28年1月～3月期)に比べて悪化した。産業別にみると、製造業は△9.4(前期△6.4)で△3.0ポイント悪化、建設業は△32.0(前期△20.0)で△12.0ポイント悪化、小売業で△42.9(前期△43.2)と0.3ポイントの若干の改善、サービス業で△36.4(前期△19.5)と△16.9ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D Iについては、全体として今期は前期に比べて若干悪化した。産業別にみると製造業で△6.4(前期△25.8)と19.4ポイント改善、建設業は△12.0(前期△12.0)で横ばい、小売業は△45.2(前期△40.9)で△4.3ポイント悪化、サービス業では△38.7(前期△26.6)と△12.1ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では19.4%で前期比6.5ポイント増加、建設業では8.3%で前期比△7.7ポイント減少、小売業では7.7%と前期比△1.8ポイント減少、サービス業では16.3%で前期比9.5ポイント増加した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H28年6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(3月調査)と比較して製造業が1ポイント悪化のマイナス5、非製造業は4ポイント悪化のゼロだった。先行きはいずれも悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では小売業で若干改善したが、製造業、建設業、サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、製造業で全国・東北以上、建設業、小売業、サービス業で全国・東北以下であった。

表一1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 18.6	△ 16.8	△ 22.1	△ 18.3	△ 6.4	△ 9.4
建 設 業	△ 17.4	△ 18.2	△ 27.6	△ 26.8	△ 20.0	△ 32.0
小 売 業	△ 41.8	△ 38.1	△ 44.3	△ 39.6	△ 43.2	△ 42.9
サービス業	△ 24.0	△ 22.3	△ 31.3	△ 20.4	△ 19.5	△ 36.4

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業で改善、建設業で横ばいであったが、小売業、サービス業で悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算D I比較では、宮城は製造業、建設業では全国・東北以上で、小売業、サービス業では全国・東北以下であった。

表一2 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 21.7	△ 18.8	△ 33.7	△ 21.3	△ 25.8	△ 6.4
建 設 業	△ 18.3	△ 16.5	△ 20.2	△ 17.5	△ 12.0	△ 12.0
小 売 業	△ 38.0	△ 34.2	△ 42.3	△ 35.9	△ 40.9	△ 45.2
サービス業	△ 27.3	△ 25.0	△ 35.1	△ 26.6	△ 26.6	△ 38.7

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（28年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で△9.4ポイント悪化、建設業で8.0ポイント改善、小売業で△2.4ポイント悪化、サービス業で△1.7ポイントの悪化見通しとなった。採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で△3.3ポイントの悪化、建設業で△8.0ポイントの悪化、小売業で4.7ポイントの改善、サービス業で5.4ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上・採算共に全国の若干の改善見通しに対し宮城は悪化方向の見通しとなった。建設業では、売上は全国で悪化、宮城で改善の見通し、採算では全国・宮城共に悪化見通しとなった。小売業では、全国が売上、採算ともに改善見通しに対し宮城は売り上げが悪化、採算が改善見通しとなった。サービス業でも、全国が売上・採算ともに改善見通しに対し宮城は売上が悪化、採算では改善見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 16.8	△ 16.2	△ 9.4	△ 18.8
建設業	△ 18.2	△ 19.8	△ 32.0	△ 24.0
小売業	△ 38.1	△ 35.9	△ 42.9	△ 45.3
サービス業	△ 22.3	△ 20.4	△ 36.4	△ 38.1

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 18.8	△ 17.8	△ 6.4	△ 9.7
建設業	△ 16.5	△ 18.3	△ 12.0	△ 20.0
小売業	△ 34.2	△ 32.8	△ 45.2	△ 40.5
サービス業	△ 25.0	△ 22.0	△ 38.7	△ 33.3

2. 県下産業別の景況

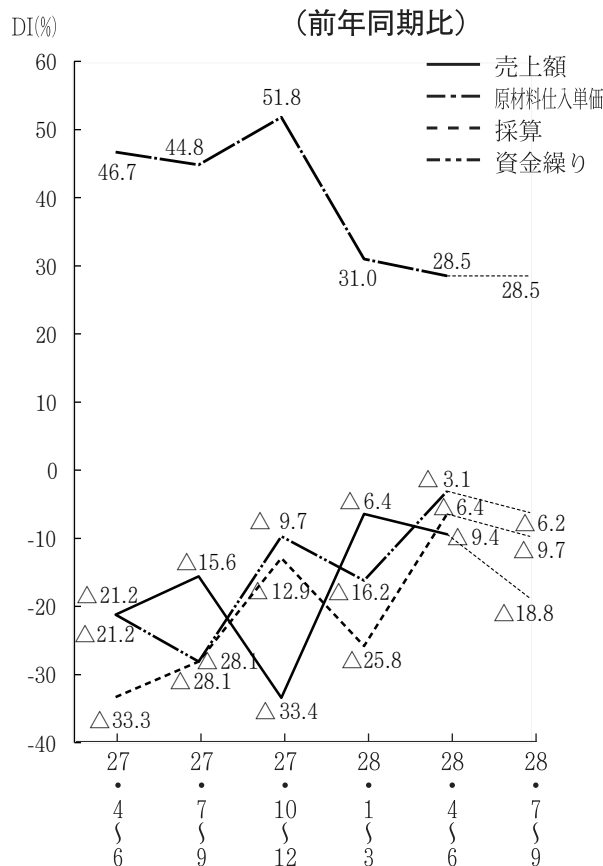
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期 $\Delta 9.4$ （前期 $\Delta 6.4$ ）となり $\Delta 3.0$ ポイント前期より悪化したが、採算D Iは今期 $\Delta 6.4$ （前期 $\Delta 25.8$ ）で19.4ポイントの改善、資金繰りD Iも今期 $\Delta 3.1$ （前期 $\Delta 16.2$ ）で13.1ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期28.5（前期31.0）と $\Delta 2.5$ ポイント減少し、今期も下落基調が続いている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



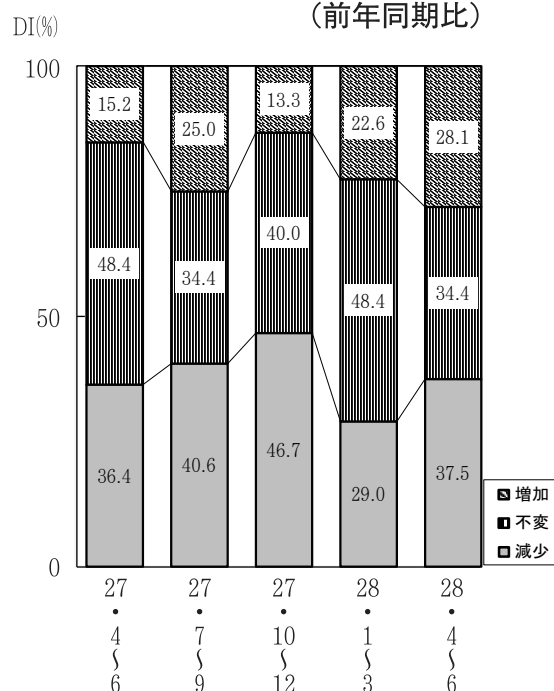
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の28.1%（前期22.6%）と5.5ポイント増加し、「減少」と回答した企業も37.5%（前期29.0%）と8.5ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは $\Delta 9.4$ （前期 $\Delta 6.4$ ）となり前期比 $\Delta 3.0$ ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

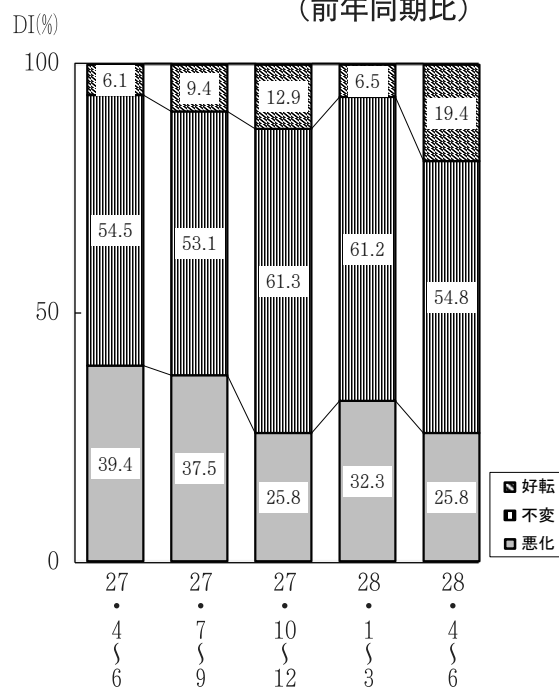


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 19.4% (前期 6.5%) で 12.9 ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は 25.8% (前期 32.3%) で△ 6.5 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△6.4 (前期△25.8) で前期比 19.4 ポイント改善した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



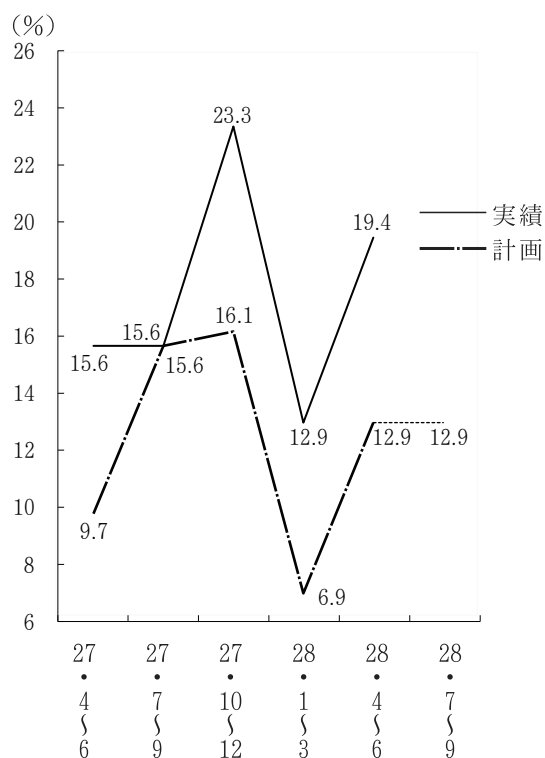
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の 19.4% (前期 12.9%) で前期と比べ 6.5 ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.9% で、その設備内容は生産設備、車両・運搬具、OA機器となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

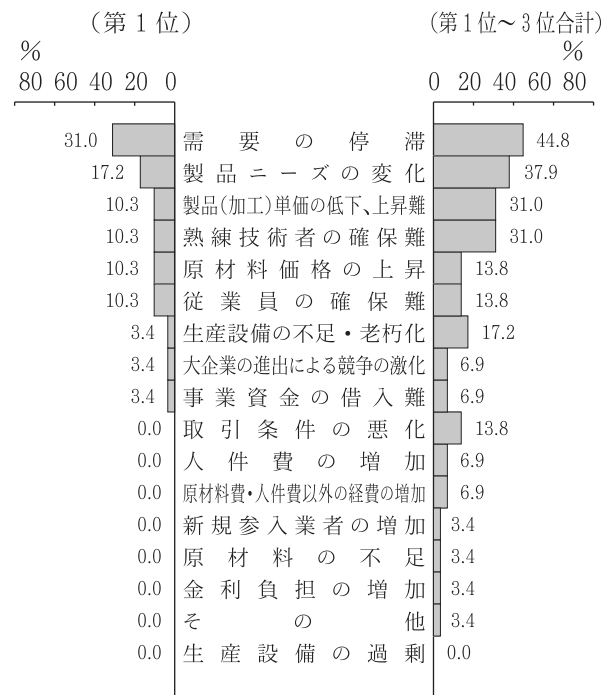


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」の31.0%で、次いで「製品ニーズの変化」が17.2%、「製品(加工)単価の低下、上昇難」、「熟練技術者の確保難」、「原材料価格の上昇」、「従業員の確保難」が同率10.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が44.8%(複数回答計、以下同じ)で最上位、「製品ニーズの変化」が37.9%、「製品(加工)単価の低下、上昇難」、「熟練技術者の確保難」が31.0%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



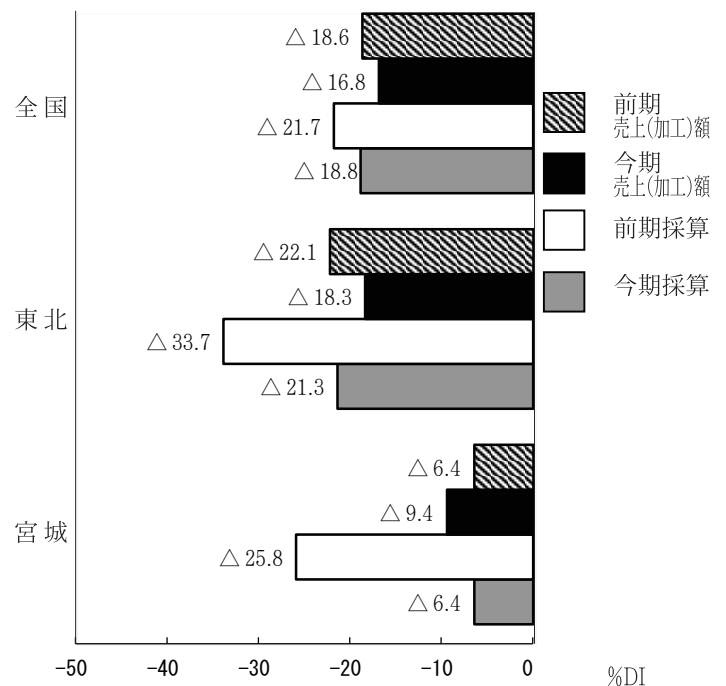
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額D Iでは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。その改善度は東北、全国の順であった。

採算D Iの比較では、全区分で改善した。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは「短納期の受注が増加。技術者の育成が急務」(金属加工業)や、「消費税先送りになったので設備の修繕や新規設備導入を検討」(印刷業)とのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



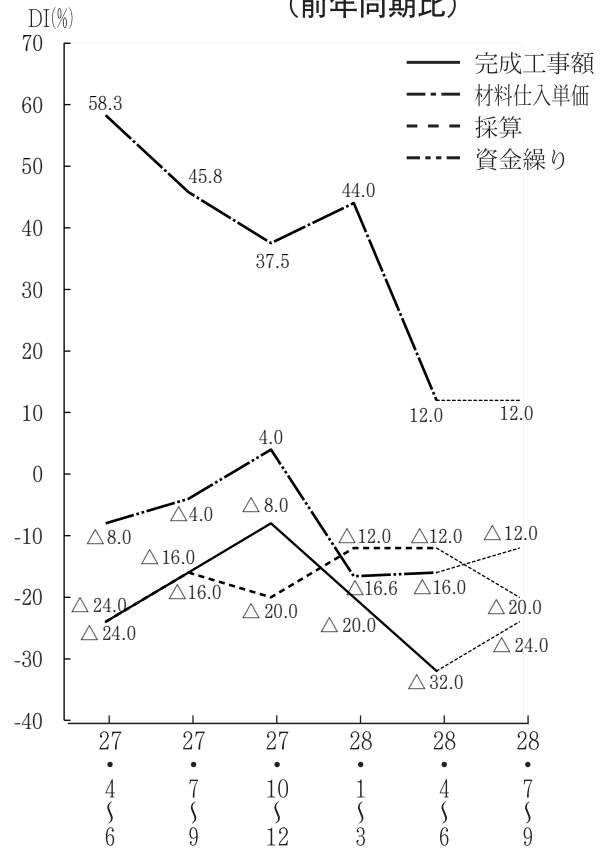
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△32.0（前期△20.0）と前期より△12.0ポイント悪化、採算D Iは今期△12.0（前期△12.0）で横ばい、資金繰りD Iは今期△16.0（前期△16.6）と0.6ポイントと若干改善した。

材料仕入単価D Iは今期12.0（前期44.0）と前期より△32.0ポイント下落、改善した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



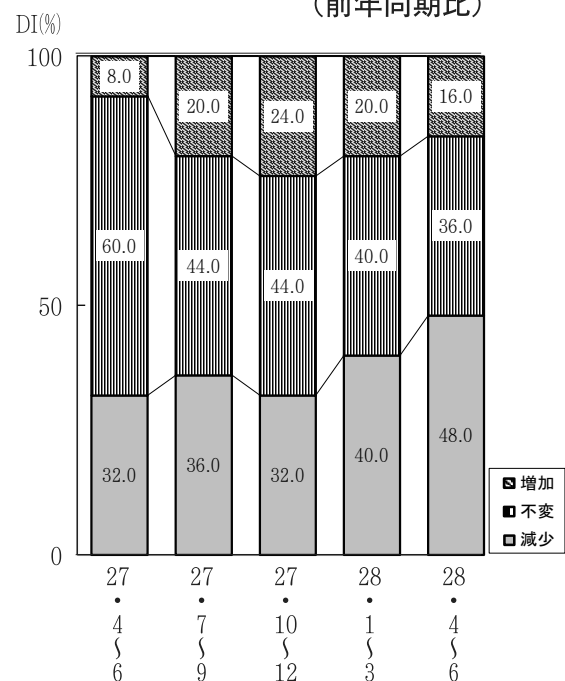
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の16.0%（前期20.0%）で△4.0ポイント減少、「減少」と回答した企業は48.0%（前期40.0%）と8.0ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△32.0（前期△20.0）と△12.0ポイント前期より悪化した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

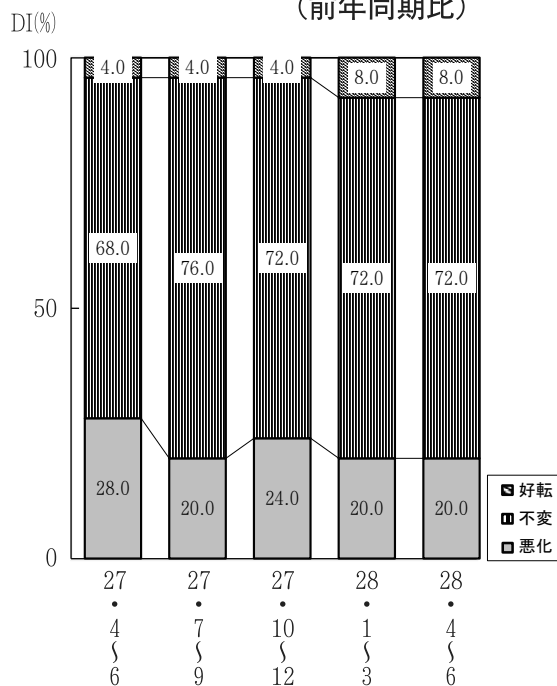


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 8.0% (前期 8.0%) で横ばい、「悪化」と回答した企業も全体の 20.0% (前期 20.0%) で横ばいであった。

その結果、採算D I も $\Delta 12.0$ (前期 $\Delta 12.0$) と横ばいであった。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



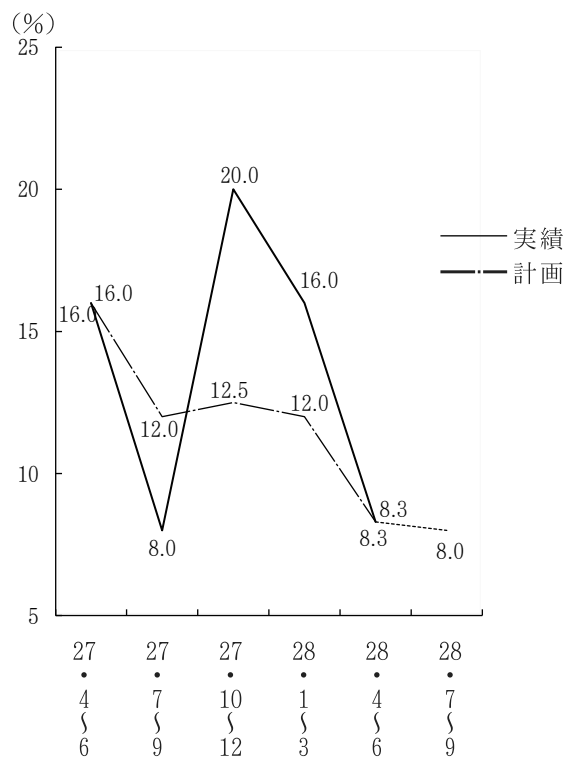
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の 8.3% (前期 16.0%) で前期より $\Delta 7.7$ ポイント減少した。

その設備内容は建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 8.0% で、その設備内容は建物、車両・運搬具、付帯施設、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

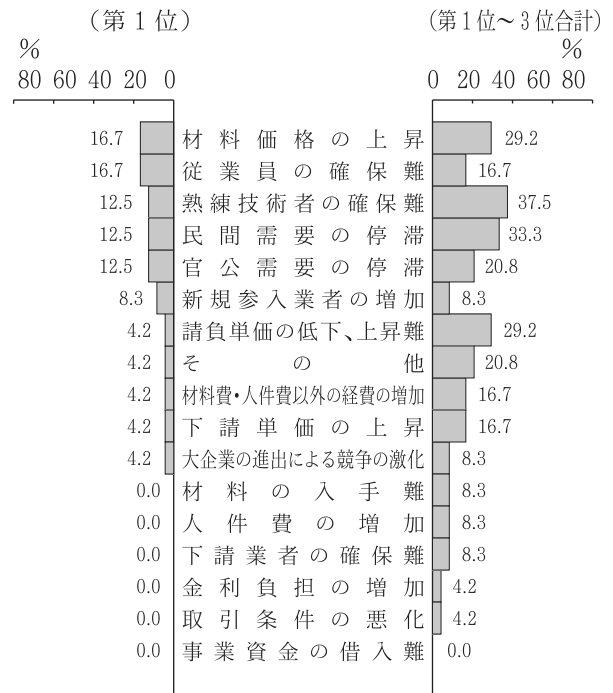


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」及び「従業員の確保難」の16.7%で、次いで「熟練技術者の確保難」、「民間需要の停滞」、「官公需要の停滞」が同率12.5%であった。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「熟練技術者の確保難」で37.5%（複数回答計、以下同じ）、次いで「民間需要の停滞」が33.3%、「材料価格の上昇」、「請負単価の低下、上昇難」が同率29.2%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



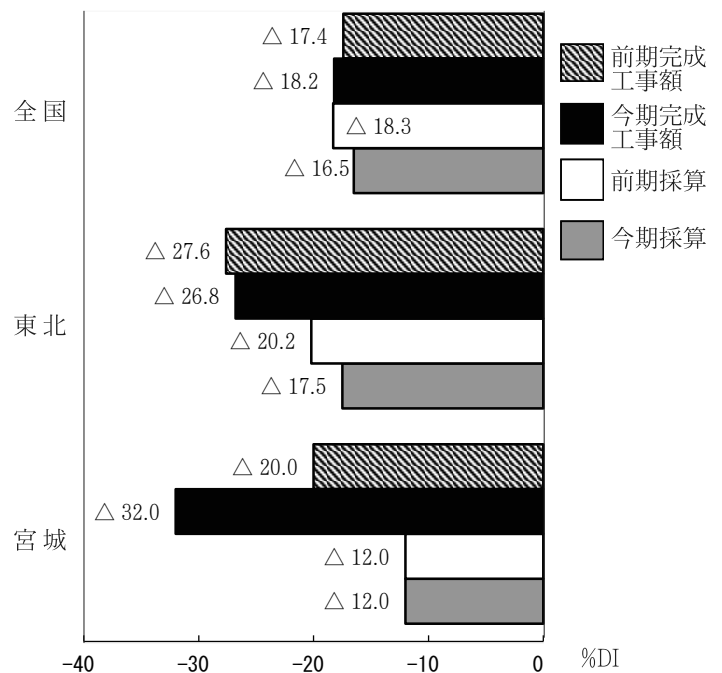
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では売上額DIは、全国で若干悪化、東北で若干改善、宮城で悪化した。

採算DIの比較では、全国、東北で改善、宮城で横ばいとなった。改善度は東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「元請よりの仕事の発注が少なくなったため他の仕事先を開拓中」や、「異業種からの参入が増加し、競争が激しく請負単価が低下」とのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較（前年同期比）



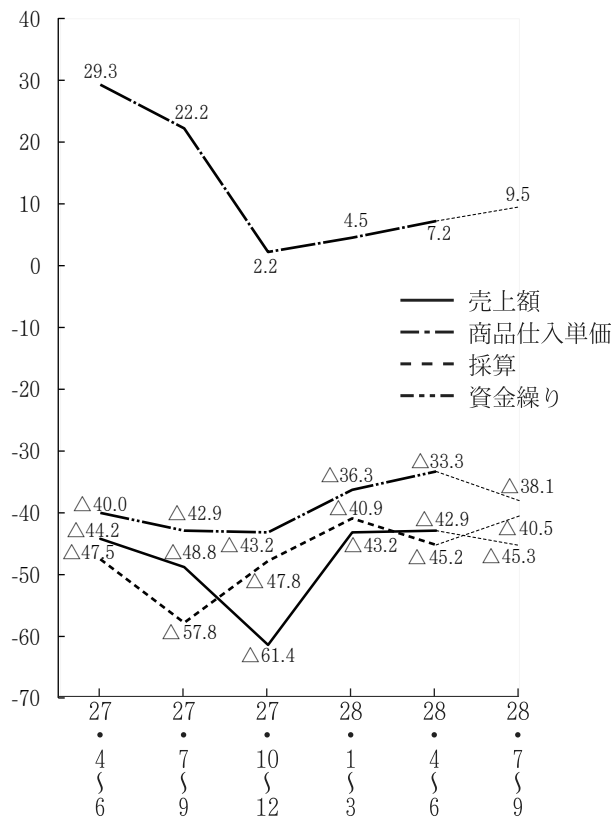
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△42.9（前期△43.2）と前期に比べ 0.3 ポイントの若干の改善、採算D Iは今期△45.2（前期△40.9）で△4.3ポイント悪化、資金繰りD Iは今期△33.3（前期△36.3）で3.0ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期7.2（前期4.5）となり2.7ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



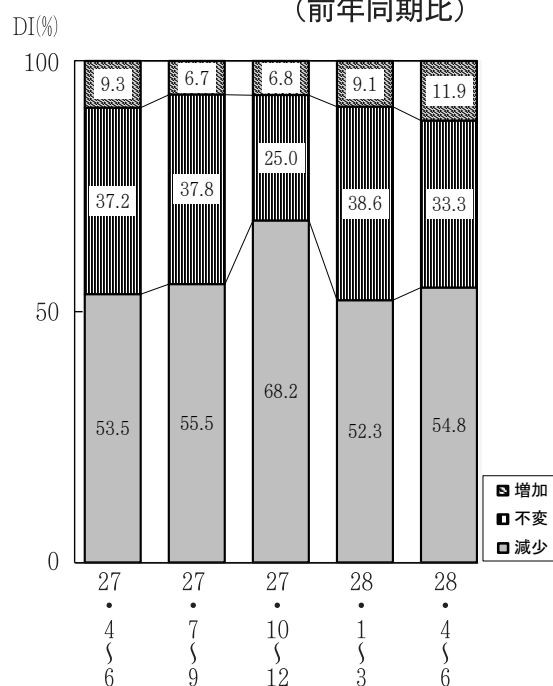
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の11.9%（前期9.1%）と2.8ポイント増加、「減少」の回答も、今期は全体の54.8%（前期52.3%）で2.5ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは今期△42.9（前期△43.2）と0.3ポイント前期より改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

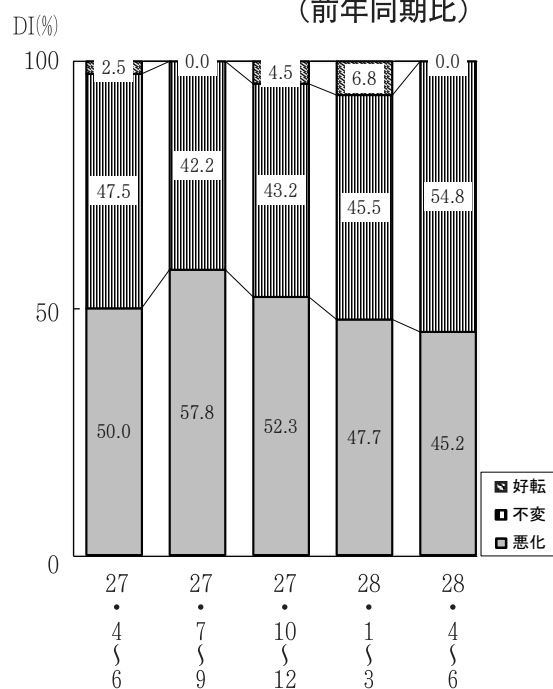


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期 6.8%）と△6.8ポイント減少、「悪化」の回答も、今期は全体の45.2%（前期 47.7%）で△2.5ポイント減少した。

その結果、採算DIは、今期△45.2（前期△40.9）で前期より△4.3ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



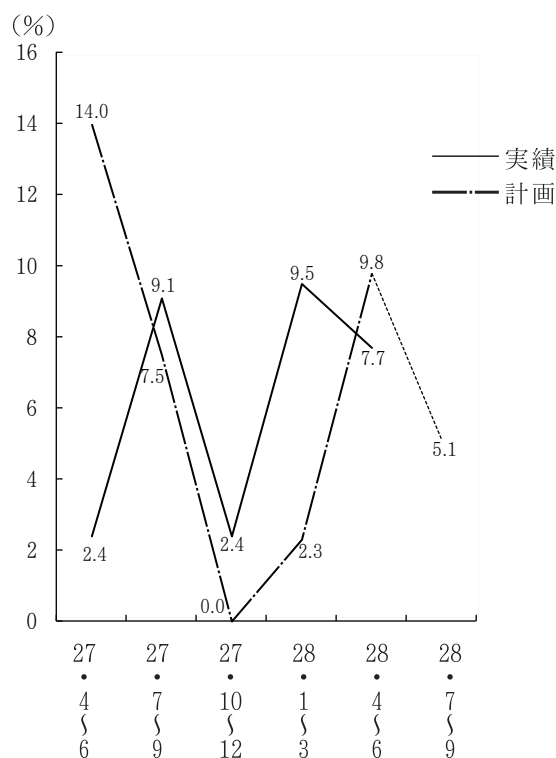
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の7.7%（前期 9.5%）で、前期より△ 1.8ポイント減少した。

その設備内容は店舗、販売設備、車両・運搬具であった。

来期に設備計画している企業は全体の5.1%で、その設備内容は車両・運搬具、OA機器、その他となっている。

図3-4 設備投資の状況

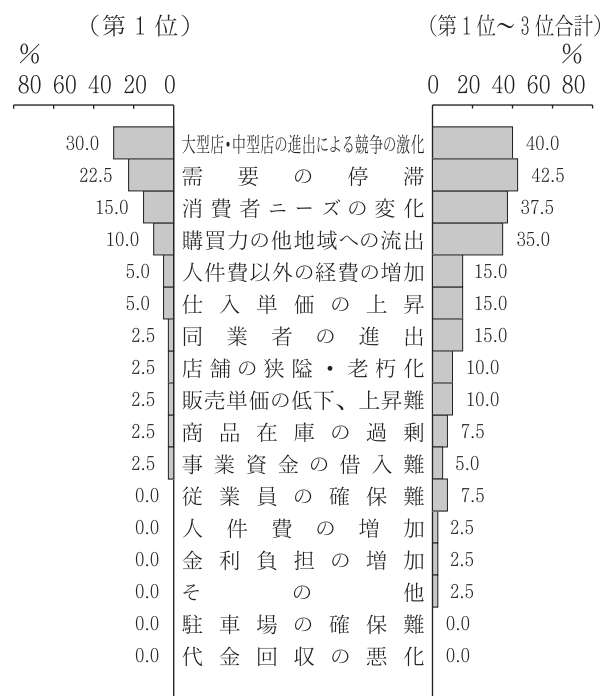


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が30.0%で、次いで「需要の停滞」が22.5%、「消費者ニーズの変化」が15.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(42.5%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が40.0%、「消費者ニーズの変化」が37.5%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



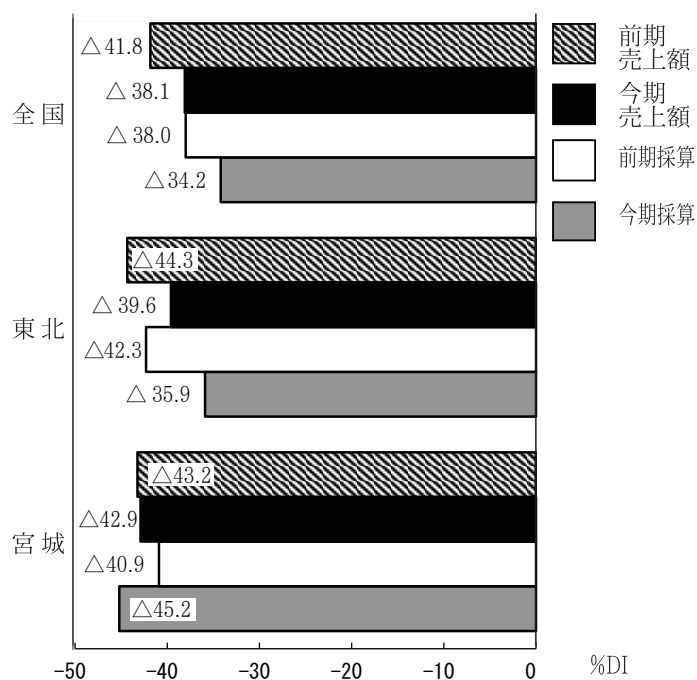
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全区分で改善した。改善度は東北、全国、宮城の順であった。

採算DIでは、全国、東北で改善、宮城で悪化となった。改善度は東北、全国の順であった。

本県回答事業所から「大型商業施設の進出により安価な商品の購買は減少しているが業務用品や学校用品等で売り上げを維持」(文具販売)、「今後のために改善点や新規の取組を検討していく」(花・植木販売業)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



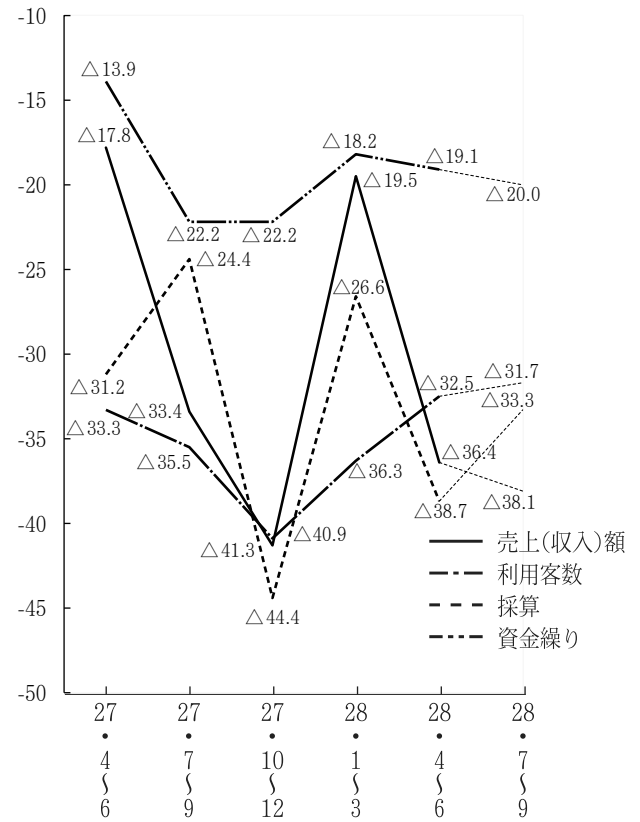
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額D Iは今期△36.4(前期△19.5)で△16.9ポイント悪化、採算D Iは今期△38.7(前期△26.6)で△12.1ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△19.1(前期△18.2)と△0.9ポイント悪化した。

利用客数D Iは今期△32.5(前期△36.3)で3.8ポイント上昇した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



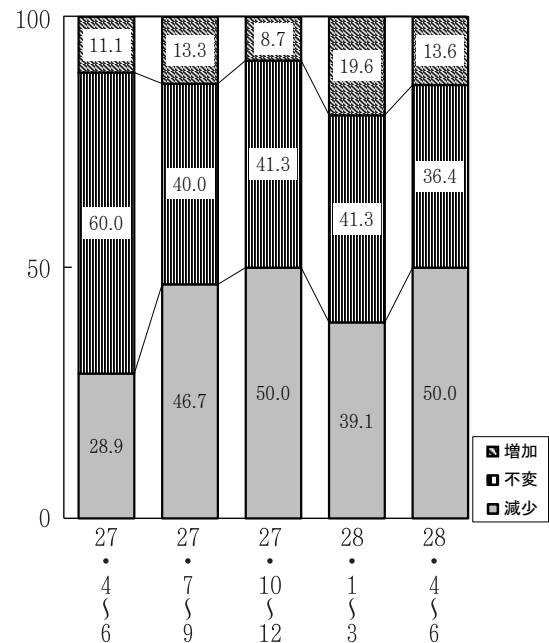
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(収入)額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の13.6%(前期19.6%)で△6.0ポイント減少、「減少」の回答は今期50.0%(前期39.1%)で10.9ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額D Iは今期△36.4(前期△19.5)で前期より△16.9ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

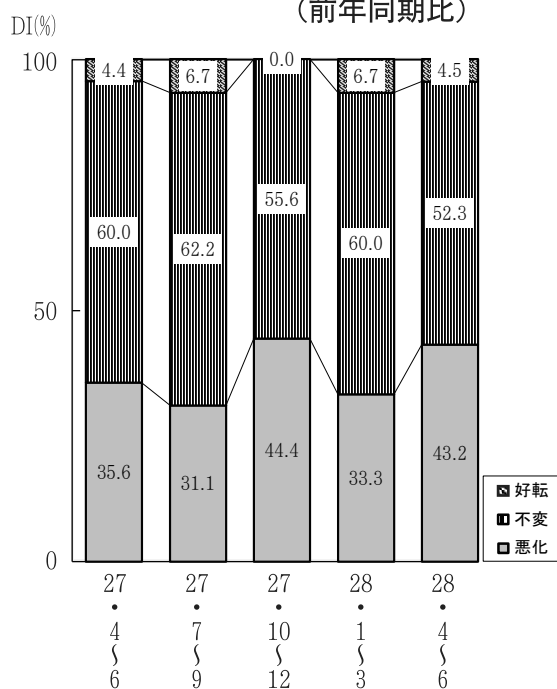


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.5%（前期6.7%）で前期比△2.2ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期43.2%（前期33.3%）と9.9ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△38.7（前期△26.6）で前期より△12.1ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



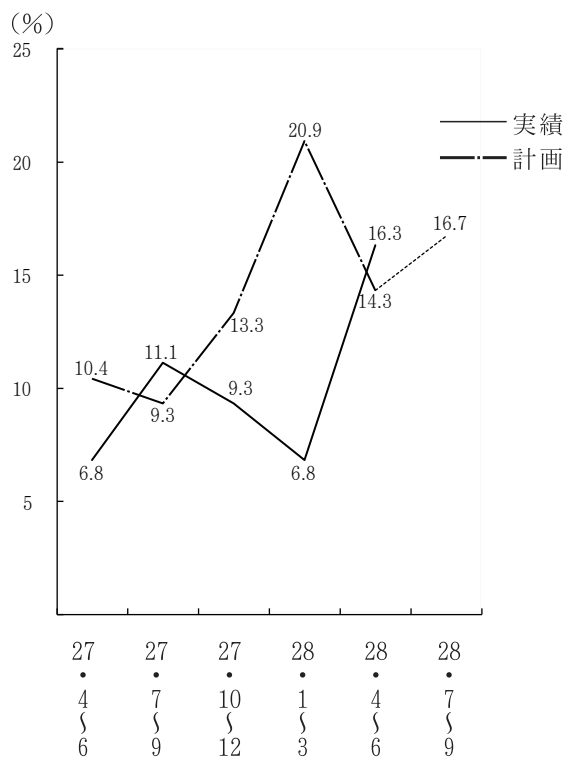
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の16.3%（前期6.8%）で前期より9.5ポイント増加した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の16.7%であり、その内容は、土地、建物、サービス、付帯施設、福利厚生施設となっている。

図4-4 設備投資の状況

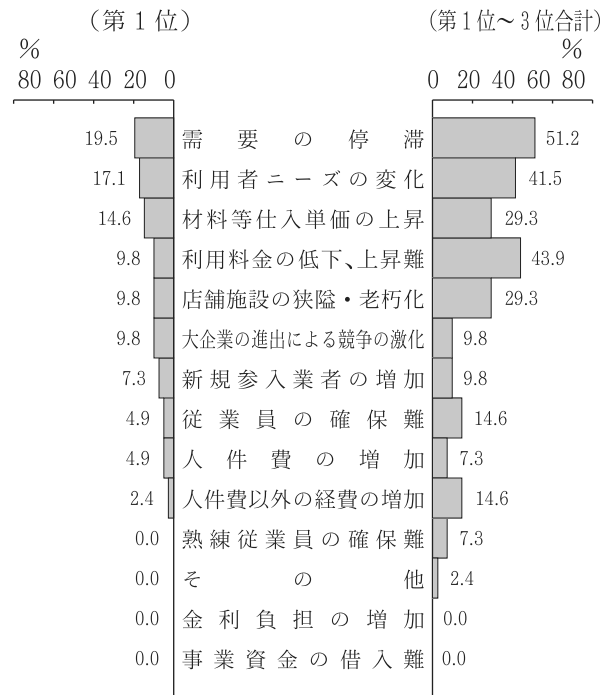


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(19.5%)で、「利用者ニーズの変化」が17.1%、「材料等仕入単価の上昇」が14.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」(51.2%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「利用料金の低下、上昇難」が43.9%、「利用者ニーズの変化」が41.5%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは、全国、東北で改善、宮城で悪化となった。改善度は東北、全国の順であった。

採算DIでも全国、東北で改善、宮城で悪化となった。改善度は東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「県外から環境を求めて来店される方も増加しており売り上げや客単価が伸びている」(喫茶飲食業)とのコメントや、「売上額は安定しているが先行きの消費税の増加による仕入れ単価の上昇を懸念」(理容業)とのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

